

研修カリキュラム(2)

事業名:外国人散在地域(東北地方・福島県)における日本語教師初任者(外国人児童生徒等)研修カリキュラム
 受託団体名:一般社団法人ふくしま多言語フォーラム

| 科目名 | 日本に来た子どもの困難さと可能性 | 単位数 | 6 |
|---|------------------|-----|---|
| 目標 | | | |
| 外国人児童生徒の現状と課題、本事業が解決しようとしている課題の背景について理解する。 | | | |
| 内容 | | | |
| <p>1 イントロダクション 著作権について／研修の進め方について</p> <p>2 文化間移動 文化間移動とは／ウィリアム・マクマイケルさんの事例の紹介</p> <p>3 エスニックコミュニティ エスニックコミュニティとは／エスニックコミュニティの生成モデル／エスニックコミュニティの役割／最近のエスニックコミュニティの変遷／ライフステージにあわせたエスニックコミュニティの課題</p> <p>4 分散と集住 集住地域の事例／分散地域の特徴／外国人児童生徒が直面するさまざまな困難</p> <p>5 多文化共生 多文化共生とは／EQUALITY, EQUITY, REALITY／移民国家と日本の政策等の比較</p> <p>6 学校・地域・家庭の言語環境と言語使用 家庭の中での言語が日本語でないことによる子どもの日本語への影響／多文化家族の支援</p> <p>7 アイデンティティ 二つまたは複数の文化の中での葛藤／アイデンティティの形成(発達段階に応じたものと個人差)／継承語の大切さ</p> <p>8 異文化適応 異文化適応とは／異文化適応 U 字曲線</p> <p>9 自文化中心主義・文化相対主義 自文化中心主義とは／日本語指導における自文化中心主義的態度／文化相対主義とは／多文化主義とは (ワークショップ)</p> <p>10 社会参加、キャリア形成、ライフコース 外国出身の児童生徒のキャリア形成／外国出身の児童生徒を将来的に地域で包摂していくという視点</p> <p>11 外国人児童生徒の困難さと今後の展望</p> <p>〔課題〕 (公財)宮城県国際化協会の「外国籍児童生徒サポート事例集多文化な子どもたちの未来をひらくために」 http://mia-miyagi.jp/pdf/kodomo_casestudy.pdf を読んで、 ①児童生徒の抱えている課題 ②有効な支援の方法 ③疑問点があれば疑問点について、A4 紙 1 枚のレポートを提出。</p> | | | |
| 参考書 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 『外国人児童生徒の学びを創る授業実践 -「ことばと教科の力」を育む浜松の取り組み』 齋藤 ひろみ, 池上 摩希子他 ○ 外国人児童生徒受入れの手引き【改訂版】 文部科学省、文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課 ○ 『学習力を育てる日本語 教案集 —外国人児童・生徒に学び方が伝わる授業実践』 とよなか JSL、田中 薫 ○ 『ことばが通じなくても大丈夫! 学級担任のための外国人児童生徒サポートマニュアル』 臼井 智美 ○ 『日本語を学ぶ/複言語で育つ-子どものことばを考えるワークブック』 川上 郁雄 | | | |

| 科目名 | 子どもの言語能力をどう捉えるか～DLA の活用に向けて～ | 単位数 | 6 |
|--|------------------------------|-----|---|
| 目標 | | | |
| 日本語を母語としない子ども達の日本語能力を測定する方法 DLA について理解を深める。あわせて、DLA の結果から学習支援の在り方に関するヒントを得る。 | | | |
| 内容 | | | |
| <p>1 留学生の日本語教育と子どもの日本語教育の違い</p> <p>2 受講者のプロフィールの確認</p> <p>3 研修の流れの確認</p> <p>4 研修後の課題の提示</p> <p>5 日本語教師(児童生徒)に求められる資質・能力 児童生徒等に対する指導の前提となる知識／日本語の教授に関する知識／教育実践のための技能／成長する日本語教師になるための技能／社会とつながる力を育てる技能／言語教育者としての態度／学習者に対する態度／文化的多様性・社会性に対する態度</p> <p>6 グループで話し合う(ワークショップ)</p> <p>①子どもたちの日本語能力の評価が<必要な時>はどんな時か</p> <p>②子どもたちの日本語能力を<どのように評価・判定>しているか</p> <p>③子どもたちの日本語能力の<何を評価・判定>しているか</p> <p>④子どもたちの日本語能力の評価結果を<どのように活用>しているか</p> <p>⑤子どもたちの日本語能力を評価判定するとき<困っていること>があるか</p> <p>7 現状把握: ニーズ調査とその結果(DLA 開発の経緯)</p> <p>8 課題解決のためのコースデザイン 目標をどのように設定するか／目標設定のための枠づくり／児童生徒の学びの実態／DLA の特徴</p> <p>9 ブルームのタキソミー(知識／理解／応用／分析／評価／創造)</p> <p>10 第1言語(母語)の習得過程 文法／音韻体系の構築／語彙の習得／話し言葉(音声言語)による言語獲得／言語環境の変化／書き言葉(文字言語)による言語習得／児童から生徒へ</p> <p>11 第2言語の習得過程 言語習得の臨界期仮説／母語と年齢の役割／バイリンガル教育</p> <p>12 言語習得のプロセス</p> <p>13 DLA のねらい</p> <p>14 DLA の構造 JSL 評価参照枠／技能別／実施について／使い方について</p> <p>15 「はじめの一步」の DVD を視聴</p> <p>16 ペアになって、「はじめの一步」を実践(ワークショップ)</p> <p>17 書く DLA について</p> <p>18 DLA の根底に流れる子どもたちへの支援の在り方 ダイナミック・アセスメント／発達の最近接領域(ヴィゴツキー)／DLA における「対話」の役割</p> <p>19 振り返り</p> <p>〔課題〕</p> <p>①DLA を実践(「はじめの一步」その他どの能力でも可)してみる</p> <p>②DLA の冊子を読んでまとめる(対象となる子どもがいない場合)</p> <p>①か②についてのレポートを提出。</p> | | | |
| 参考書 | | | |
| <p>○ 『外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント』文部科学省編 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm</p> <p>○ 『外国人児童生徒受入れの手引き』文部科学省編 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm</p> <p>○ 『学習言語とは何か』バトラー後藤裕子著、三省堂</p> | | | |

| | | | |
|--|----------------------|-----|---|
| 科目名 | 児童生徒等のための教材・教具とその活用法 | 単位数 | 6 |
| 目標 | | | |
| <p>子どもの言語学習の枠組みとして支援の必要度を表す6段階のステージと5つのプログラムの考え方を理解する。また、教材の特性を分析し、子どもの学習進度に応じて選択し組み合わせる力をつける。</p> | | | |
| 内容 | | | |
| <p>1 日本語指導のコースデザイン(サバイバル日本語、初期指導、中期指導、教科との統合学習)</p> <p>(1) コースデザインのための基礎知識</p> <p>(2) 5つのプログラムと教材・教具</p> <p>(3) コースデザインを考えるための準備</p> <p>2 生徒の情報からコースデザインを考える(ワークショップ)</p> <p>3 児童生徒等の将来と進路指導</p> <p>[課題]</p> <p>東京都教育委員会作成の「たのしいがっこう」の教材研究。各課の学習目標、使われている語彙・表現を一覧表にする。</p> | | | |
| 参考書 | | | |
| <p>○外国人児童生徒受入れの手引【改訂版】</p> <p>文部科学省、文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------------------|-----|---|
| 科目名 | 子どもが理解しやすい言い換え・書き換えを考える | 単位数 | 6 |
| 目標 | | | |
| <p>子どもの言語能力の発達、文章理解プロセスをふまえて子どもが理解しやすい言い換え・書き換えを考慮することができるようになる。</p> | | | |
| 内容 | | | |
| <p>1 子どもは、どのようにして読めるようになっていくのか</p> <p>(1) 「読み」の発達</p> <p>(2) 就学後の言語能力の発達</p> <p>(3) 話しことばと書きことば</p> <p>2 単語と文法がわかれば読めるのか—認知心理学の視点から—</p> <p>(1) 文章を理解するプロセス</p> <p>(2) スキーマとスクリプト</p> <p>3 もとの表現を言い換えるだけでよいのか</p> <p>(1) 文章を通じた理解に向けて</p> <p>(2) パラフレーズにあたっての留意点</p> <p>(3) ワークショップ①(2種類のリライトの比較検討)</p> <p>(4) ワークショップ②(リライトの作成と改善)</p> <p>4 発達段階における「ことば」の役割</p> <p>5 学びの共有(受講者から一人一言)</p> <p>[課題]</p> <p>理科教科書のコラム欄から、日本での生活経験を前提とした記述を探して、リライトすること。</p> | | | |
| 参考書 | | | |
| <p>○ 庵功雄(2016)『やさしい日本語—多文化共生社会へ—』岩波書店</p> <p>○ 鎌田美千子(2018)「教科書の文章とパラフレーズ—日常語・抽象語・背景知識・主体的な学び—」宇都宮大学国際学部編『多文化共生をどう捉えるか』下野新聞社, 165-169.</p> <p>○ 鎌田美千子・仁科浩美(2014)『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』スリーエーネットワーク</p> | | | |

- 鎌田美千子(2016)「日本語を第二言語とする子どもたちのためのリライト教材作成に関する方法論的検討—日常会話レベルから教科書レベルへの橋渡し—」『宇都宮大学留学生教育研究論集』7, 3-10.
http://hdl.handle.net/10241/00010445
- 鎌田美千子(2019)「指導段階および教科に応じた教科書リライトの方法論的検討」『宇都宮大学国際学部研究論集』47号,33-39. http://hdl.handle.net/10241/00011847
- 光元聰江・岡本淑明(2016)『外国人・特別支援 児童・生徒を教えるためのリライト教材』ふくろう出版

| | | | |
|--|-------------------------|-----|---|
| 科目名 | 実習①支援の現場の実際(日本語指導実習の準備) | 単位数 | 6 |
| 目標 | | | |
| 福島県の支援の現状を知り、支援の現場を見学し、チームで実習の指導案を作成する。今までの研修を振り返る。 | | | |
| 内容 | | | |
| <p>1 福島県の子どもの日本語支援の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福島県の外国籍児童生徒の数と日本語指導を必要とする児童生徒の数 ・日本語指導担当の加配教員の数 ・学校での日本語支援の制度と状況 ・学校内での日本語支援の状況 <p>2 今までの研修を振り返る(ワークショップ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3, 4人のグループを作り、研修の感想を話す ・研修で得た成果を付箋に書き出し、知識、技能、態度に分けて分類し、共有する ・もっと知りたいこと(ニーズ)を書き出し、共有する <p>3 子ども日本語教室「土曜広場」を見学する</p> <p>4 実習のための指導案を2つ作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3, 4人のグループを作り、チームで50分の指導案を作成する ・グループを替え、2つ目の指導案を同様に作る <p>[課題]</p> <p>チームで作った実習指導案を実習実施4日前までに提出する。</p> | | | |
| 参考 | | | |
| (公財)福島県国際交流協会ホームページ 「ふくしま外国の子どもサポートセンター」 http://worldvillage.org/kodomo/index.htm | | | |

| | | | |
|--|-------------------|-----|---|
| 科目名 | 実習②(支援活動の実施と参与観察) | 単位数 | 6 |
| 目標 | | | |
| 日本語の支援活動をし、他のグループの支援活動を見学し、作成した指導案と指導内容が適切であったか振り返る。 | | | |
| 内容 | | | |
| <p>1 こおりやま日本語教室の概要</p> <p>2 実習対象児童生徒の説明</p> <p>3 指導案の再検討、日本語の支援活動の準備</p> <p>4 支援活動(50分)と他チームの支援活動の参与観察(50分)</p> <p>5 支援活動の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム内での振り返り ・全体での振り返り <p>[課題]</p> <p>各自、実習の振り返り、指導内容報告書、実習見学ワークシートを提出する。</p> | | | |

参考

こおりやま日本語教室 <http://koriyama-nihongo.org/>

科目名

実習③(支援活動の実施と参与観察)

単位数

6

目標

日本語の支援活動をし、他のグループの支援活動を見学し、作成した指導案と指導内容が適切であったか振り返る。

内容

- 1 ふくしま子どもの日本語ネットワークの概要
- 2 実習対象児童生徒の説明
- 3 指導案の再検討、日本語の支援活動の準備
- 4 支援活動(50分)と他チームの支援活動の参与観察(50分)
- 5 支援活動の振り返り
 - ・チーム内での振り返り
 - ・全体での振り返り

〔課題〕

各自、実習の振り返り、指導内容報告書、実習見学ワークシートを提出する。

参考

ふくしま子どもの日本語ネットワーク <https://www.facebook.com/fukushima.konet>

| | | | |
|---|---------------------|-----|---|
| 科目名 | 外国から来た子どもを家庭と地域で支える | 単位数 | 6 |
| 目標 | | | |
| 支援環境について考える。保護者の抱える困難について考える。 | | | |
| 内容 | | | |
| <p>1 散在地域について</p> <p>(1)日本語指導が必要な児童生徒の状況について(2)</p> <p>散在地域の特徴</p> <p>2 散在地域の支援体制(学校内の態勢)(1)</p> <p>特別の教育課程の指導者について</p> <p>(2)外部支援者の役割、指導補助者の役割</p> <p>(3)学校内の支援態勢「サポートチーム」について</p> <p>複数の大人が子どもを見ることの大切さ／大人のネットワーク＝子どものセーフティネット</p> <p>(4)ワークショップ</p> <p>①自分が関わっている学校内の支援態勢を図にまとめる</p> <p>②学校における支援で自分が担っている役割を書き込む</p> <p>③学校での支援で使えるリソースを挙げる</p> <p>④学校における支援の課題を挙げる</p> <p>(5)散在地域の支援態勢(山形市の場合)</p> <p>子ども最優先の視点／家庭支援の視点</p> <p>3 外国出身保護者の抱える困難</p> <p>(1)ワークショップ</p> <p>「子どもがいじめられているかも知れない場合、保護者から学校へどのように働きかけるか」日 本人保護者のビリーフ／外国人保護者は日本人と同じビリーフを持つのか？</p> <p>(2)外国出身保護者の抱える困難</p> <p>外国出身であることの「怖さ」／日本語の読み書きに対する「怖さ」／子育てに対する自信のなさ</p> <p>(3)外国人保護者に言ってはいけない一言</p> | | | |
| 4 振り返り | | | |
| [課題] | | | |
| 「散在地域で、今できること、近い将来できること、できそうなことは何か」をA4 1 ページにまとめる。 | | | |
| 参考書 | | | |
| <p>○ 外国出身保護者のための支援サイト「幼稚園・保育園の連絡帳を書こう！」https://renrakucho.net/</p> <p>○ 内海由美子・澤恩嬉(2013)「外国人の母親に対する読み書き能力支援としてのエンパワメント」『日本語教育 155 号』</p> | | | |

| | | | |
|---|---------------------------|-----|---|
| 科目名 | 外国につながる子どもをめぐるソーシャルネットワーク | 単位数 | 6 |
| 目標 | | | |
| 外国につながる子どもが日本に在住する法的、社会的背景を理解するとともに、子どもの指導・支援につながるネットワークを「社会関係資本」という視点から俯瞰しながら、そのネットワークの中での自らの役割(立ち位置)を意識し、指導・支援ができるようになる。 | | | |
| 内容 | | | |
| <p>1 今日の研修で向上が期待される資質・能力</p> <p>2 文化が異なる人がともに住む難しさ</p> <p>単文化社会と多文化社会／外国人に立ちはだかる 3 つの壁／同化か共存か</p> <p>3 外国人と法</p> <p>(1)日本政府が定める在留資格・身分について</p> <p>(2)子どもの在留資格・身分について</p> <p>(3)様々な子どもたちの背景と家庭環境</p> | | | |

- (4)外国につながる子どもの教育機会
 (5)ワークショップ1
 教育を受ける権利が侵害されているかもしれない事例で、だれが、どのように対応(支援)できるのかをグループで考える。
- (6)散在地域の外国につながる子どもを受け入れる課題教員
 や支援者が孤軍奮闘している／体制構築が困難
- 4 多文化コミュニティの教育課題
 外国につながる子どもの教育機会の提供には、つながれる人や機関を広く求める。
- (1)ワークショップ2
 外国につながる子どもがいる学校や保育所でつぶやかれる一言が書かれたカードをグループで分類し、何がつぶやきの背景にあるかを話し合う。
- (2)ワークショップ3
 子ども取り巻く学校で実際に起きた課題について、課題の背景、解決の方法などについてグループで話し合う。
- (3)ワークショップ4「ひょうたん島の教育問題」(藤原孝章 2008)を体験
- 5 外国につながる子どもと社会関係資本(ソーシャルネットワーク) 社会関係資本とは／移民社会の社会関係資本構築のしくみ例
- (1)ワークショップ5
 外国につながる子どもをめぐる社会資本をグループで書き出す。
- (2)社会関係資本構築の取り組み例
- (3)ワークショップ6
 受講者がいるコミュニティで子どもをめぐる社会関係資本は何があるか、その中で、受講者自身はどのような役割が担えるか考える。
- 6 振り返り
 受講者自身の資質・態度に変化はあったか。
 [課題]
 「私が関わっている社会関係資本について言語化し、自分の現在地を知る」という内容でレポート提出。

参考書

- 藤原孝章(2008)『シミュレーション教材「ひょうたん島問題」』(明石書店)
- ロバート・D. パットナム(2006)『孤独なボーリング—米国コミュニティの崩壊と再生』(柏書房)

| 科目名 | 社会参加のための日本語教育 | 単位数 | 6 |
|--|---------------|-----|---|
| 目標 | | | |
| 社会参加のための日本語教育を、外国人児童生徒のキャリア形成、学校づくり、授業実践の視点から考えることができる。 | | | |
| 内容 | | | |
| 1 インTRODクシヨン—研修のテーマ | | | |
| 2 今日の研修で向上が期待される資質・能力 | | | |
| (1) 今日目標 | | | |
| (2) 今日の流れ | | | |
| 3 パート1 社会につながる力を学校でどう育てるか? | | | |
| 〈ワークショップ〉野村達雄さんの子ども時代のエピソードを読み、グループで話し合いながら「野村さん成功『鍵』」を見つける。 | | | |
| (1) 「ポケモンGO」開発者の野村達雄さんから考える | | | |
| (2) 伝記を読み、共有し、考える—野村さんの成功の鍵は人生の中にどのように埋め込まれているのか? | | | |
| (3) 野村さんの成功の鍵は何か? | | | |
| (4) 野村さんの成功は、野村さんだからできたのか? 他の外国にルーツをもつ子どもでもできるのか? | | | |
| 4 パート2 社会につながる力を生み出す学校づくりと外国人児童生徒 | | | |
| 〈ワークショップ〉グループで話し合いながら、提示された4つのエピソードの中に共通している「分断された世界 | | | |

に変革を起こす学校の仕掛け」をあぶりだす。

- (1) A 小学校の取り組みから考える
- (2) 「学校を変える」という点からエピソードにある共通点は何か？
- (3) エピソードの整理と概念化
 - ① 校内放送のエピソードから可視化と承認の関係を理解する。
 - ② 教務主任のエピソードから可視化と承認の関係を確かめる。
 - ③ 他のエピソードをグループで概念化する
- (4) マイノリティとマジョリティをつなぐ「可視化」効果
- (5) 「分断」から「つながり」へ、「排除」から「承認」へ、「自己否定」から「自尊」へ、そのためには？
 - ① 社会正義の視点 1 再分配
 - ② 社会正義の視点 2 承認
 - ③ 社会正義の視点 3 代表の再定義

5 パート 3 外国人児童生徒が社会につながるために 日本語の授業で何ができるか？

- (1) 実際の指導場面を想定して
 - ① 漢字からの指導を考える
 - ② 未来のルールを考える
 - ③ 推測しながら対話する
- (2) 「学力」とは何だろうか？
 - ① 算数の問題から
 - ② 学校で育てる能力の「深さ」の分類
- (3) 野村さんのような力を日本語学習者も獲得するためには？ 実践の分析
(ワークショップ) 毒餃子事件をテーマにした実践はどのようなゴールを見据えているか、この実践で子どもたちはどのような力を得たか、子どもたちの「日本語の壁」をどのような支援で乗り越えたと考えられるか、グループで話し合う。
 - ① 実践を分析してみよう—餃子事件の犯人は誰か？
 - ② 分析の結果の共有
 - ③ 「日本語の壁」を越えて学習への参加するために
- (4) 学習に必要な言語の力とは
 - ① カミンズの学習に必要な言語の分析
 - ② 「いい授業」は常に文脈が存在し、次第に抽象度が上がる
 - ③ 餃子の授業における「文脈のつくりかた」「抽象度の上げかた」
- (5) こうした実践を、いつ行うか？ カリキュラムマネジメントとして
- (6) 「高次の学力」はなぜ必要なのか？
 - ① 今求められる学力として
 - ② 「高次の学力」は、外国にルーツを持つ子どもをどう救うか？

6 振り返りと課題

〔課題〕

「社会参加のための日本語教育」を考えていくうえで、どのようなことが大事だと思ったか、重要だと思うキーワードを2～3挙げる。また、自身の現場で具体的にどのようなことを行っていきたいと思うか、上に挙げたキーワードを文中に使いながら、自分の思ったことを説明するレポートを提出。

参考書

- 石井英真 (2015) 『今求められる学力と学びとは—コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影 (日本標準ブックレット)』 日本標準, 2015 年.
- 齋藤ひろみ・今澤悌・内田紀子・花島健司 (2011) 『外国人児童生徒のための支援ガイドブック—子どもたちのライフコースによりそって』 凡人社.
- 野村達雄 (2017) 『ど田舎生まれ、ポケモンGOをつくる』 ShoPro books
- 前田康裕 (2016) 『まんがで知る教師の学び これからの学校教育を担うために』 さくら社
- 前田康裕 (2017) 『まんがで知る教師の学び 2—アクティブ・ラーニングとは何か』 さくら社
- 前田康裕 (2018) 『まんがで知る教師の 3—学校と社会の幸福論』 さくら社
- 前田康裕 (2019) 『まんがで知る未来への学び—これからの社会をつくる学習者たち』 さくら社
- 前田康裕 (2019) 『まんがで知る未来への学び 2 (教師も変革を起こす時代)』 さくら社
- フレイザー, N., 向山恭一訳 (2013) 『正義の秤—グローバル化する世界で政治空間を再想像すること』 法政大学出版局.

| 科目名 | 地域の次世代としての子どもたちー多様性を地域の資源に | 単位数 | 6 |
|---|----------------------------|-----|---|
| 目標 | | | |
| <p>本講座の受講を通して学んできた「外国人児童生徒等を対象とする日本語教育」に関する理論や実習における経験を元に事例の分析を行い、「日本語を学ぶこと」は、文化間移動をする子どもたちが「自己の多様性を発揮して地域社会に参加する」ための力であることを理解するとともに、かれらが地域の次世代の構成員として支援・教育するために、明日から自身ができる支援活動を具体的にイメージすることができる。</p> | | | |
| 内容 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1 講座のねらいの確認、キーワードの提示 2 講義① 1)文化間移動をする子どものライフコース2)ダイバーシティ(多様性に拓かれた社会) 3 事例分析①グエンさんのライフコース(日本生まれ・日本育ちのベトナム難民家庭の子ども) リテラシーの発達、生活言語能力・学習言語能力、発達障害・学習障害(特別支援のニーズ) 4 ワークショップ① 漢字学習の活動を考える(年齢・滞日歴に異なる3タイプの児童生徒対象) 漢字の基礎を学ぶ、母語(中国語)の力を生かして漢字を学ぶ、歴史の学習に関連付けて漢字を学ぶブルームのタキソミー(教育目標分類) 5 事例分析②カルロスさんのライフコース(幼少期来日、ブラジル人学校から公立学校へ編入した子ども) 言語獲得と社会化、社会的役割の拡張、社会的アイデンティティ、自己のクリティカルな分析 6 ワークショップ② 子どもたちが参加できる地域の活動を考える 地域社会の次世代育成 ことば＝地域社会への参画・変革、創造のための力 7 事例に学ぶ 浜松市の中学校における日系人生徒を対象とするキャリア教育キャリアア支援、社会環境や進路に関する知識、未来志向の生き方考える教育 8 ワークショップ③ 私のライフコースと多様な言語文化背景を持つ子どもたちへの日本語学習支援活動新たな課題:保育・幼児教育、高等学校進学後の学習保障、特別支援のニーズ、貧困、就業(在留資格) 異領域との協働、家庭・学校・地域のネットワーク 9 まとめ 個性を生かして、明日からできる活動を考える専門性向上、対話を通じた内省の重要性 〔課題〕 11 回の研修を受けて学んだこと、子どものために地域支援活動として何ができそうかをレポートにまとめる。 | | | |
| 参考書 | | | |
| <p><書籍></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 齋藤ひろみ・池上摩希子・近田由紀子(2015)『外国人児童生徒の学びを創る授業実践 - 「ことばと教科の力」を育む浜松の取り組み』くろしお出版 ○ 齋藤ひろみ・今澤悌・内田紀子・花島健司(2011)『外国人児童生徒のための支援ガイドブックー子どもたちのライフコースによりそって』凡人社 ○ J. A. クローセン著、佐藤慶幸・小島茂訳(2000)『ライフコースの社会学 新装版』早稲田大学出版部 ○ マイケル・バイラム、細川英雄監修・山田悦子・古村由美子訳(2015)『相互文化的能力を育む外国語教育』大修館書店 ○ L. W. Anderson & D. R. Krathwohl (eds.) 2001 <i>Taxonomy for Learning, Teaching, and Assessing, : A Revision of Bloom's Taxonomy of Educational Objectives</i>, Addison Wesley Longman. <p><Web サイト></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文部科学省 新しい学習指導要領「生きる力」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm ○ 光村図書出版 小学4年生 漢字学習の指導計画例 https://www.mitsumura-tosho.co.jp/2020s_kyokasho/download/ ○ 栄光ゼミナール×ちびむすドリル 小学生学習教材 https://happyilac.net/eikoh/pdf/ek2017-s6_social_6-1-01.pdf | | | |